

植物を扱う研究部門を担います

御社
商品・成果

当社
研究・検証

御社
企画・課題

栽培比較試験
論文・報告書調査

< 特徴 >

専門研究員の配置や設備導入するよりもスピーディー

研究役：植物利用や農業、食糧生産への参入を検討する事業者（資材・システム）の植物を扱う研究部門として機能

中立的：客観性のある科学的方法を用いて実施し、学会発表や学術論文等へ利用できるデータとして提供が可能

< 保有設備 >

新規導入設備の習熟やメンテナンスに悩まされません

外乱を極力防いだ当社設備環境と保有測定装置で、栽培試験・評価を実施



【水俣研究所】

「人工光型植物工場」形式の栽培試験環境



【山口大学内研究所】

人工気象器(20台)の栽培試験環境



アグリライト研究所

Agri-Light Lab. Inc.

リモセンの植物・農業利用 への挑戦

(リモートセンシング)

システム構築と技術構築手法の展開、利用シーン拡大に向け、ご支援・マッチングお待ちしております

衛星データを活用（農作物高品質化が可能な仕組みづくり研究）

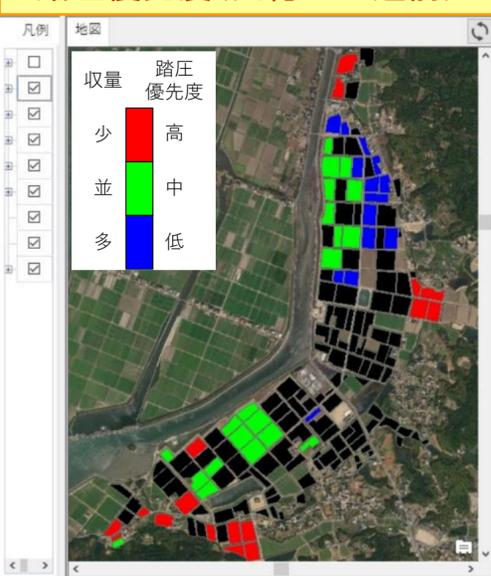
現在の対象は「山口県産パン用小麦の高タンパク化」今後、他地域・他作物利用へ向けて、技術構築手法の展開を目指します

利用者想定：

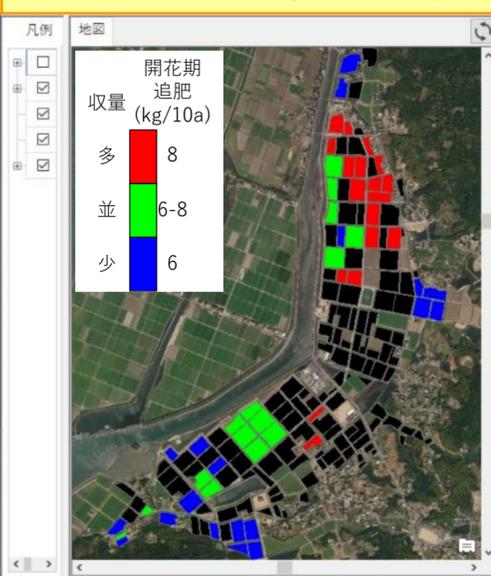
- ・一筆収量・発育データのある産地
- ・JAや県単位の営農指導員組織

過去の「衛星データ」と「収量・発育データ」を組み合わせ、予測モデルを構築。従来の栽培指針に客観データを付加し、山口県での営農指導実証中（2020年度～）。

踏圧優先度（出穂5～6週前）



開花期追肥量（出穂3～4週前）



関連ご支援

2019年度実施 内閣府「課題解決に向けた先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクト」
【衛星データとIoT農業機械による国産パン小麦高収益生産の実証】
2020年度実施 地方独立法人 山口県産業技術センター「衛星リモートセンシング関連システム等開発業務（小麦の生育管理システム）」
【衛星データと地上発育モデルの組み合わせによる高効率かつ高精度な小麦生育総合管理システム】

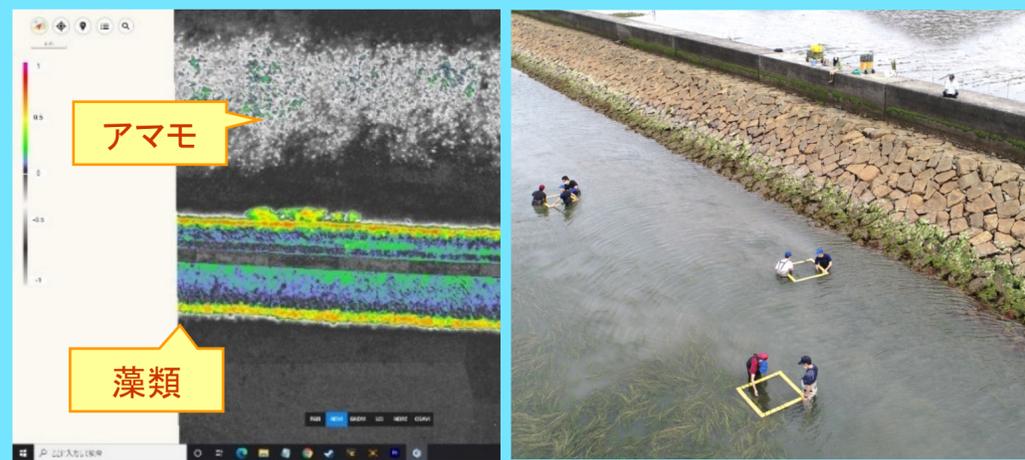
ドローン空撮データを活用（アマモ評価の空撮・画像処理技術研究）

二酸化炭素の固定や水質浄化などの役割を持つ「アマモ」が着目されている中、ドローンを活用してアマモを検出し生育を評価する技術の展開を目指します

利用者想定：

カーボンクレジット制度管理へ向けたアマモ場・藻場の環境調査事業者

熊本県芦北町のアマモ場をモデルとして、空撮条件「潮位・太陽の向き・風」と画像処理条件の最適化とデータ収集中（2021年2月より毎月1機会以上実施）。藻場画像からアマモ抽出、アマモ生育量評価による二酸化炭素固定量評価の需要に向け、モデル構築を進行中。



関連ご支援

2018年～2021年度実施 公益財団法人 水俣・芦北地域振興財団「環境技術研究開発事業」
【定植事業の規模拡大を後押しする「植物工場技術」を用いた高定着率アマモ苗の効率的な大量生産技術の確立】
2018年12月～ 熊本県立 芦北高等学校 との共同研究体制
2018年8月 第2回マリンテックグランプリ 企業賞受賞